

小山北桜 「成功体験」

投手陣



◀ 福田修士
(2年)
▶ 永吉仁太
(1年)

福田は伸びのあるストレートが特徴の右腕エース。永吉は緩急を活かしたピッチングをみせるサウスポー

打撃陣



◀ 海老沼粹世
(1年=三塁手)
▶ 中村翔
(1年=一塁手)

海老沼はパンチ力があり、出塁率の高いリードオフマン。中村は勝負強いバッティングをみせる4番打者

交流戦で勝ち上がり秋季県大会シード権 部員15人、小山エリアのダークホース

小山北桜が今秋の交流戦で勝ち上がり秋季県大会のシードとなった。1・2年生で計17人(マネージャー3人)のチームは、成功体験を積み上げることで強くなっていく。

■秋の交流戦で金星を挙げた

交流戦で“番狂わせ”が起きた。小山北桜が、宇都宮短附に勝利して秋季県大会のシードを獲得した。就任2年目の菅原祐貴監督は「8月の交流戦はどのチームもまだ仕上がっていませんから」と控え目に話すが、選手たちには大きな自信となった。今夏の1回戦で小山北桜は、宇都宮短附と対戦して4対7で敗れていた。新チームとなった8月25日の交流戦ブロック決勝で再び対戦したが、小山北桜はエース福田修士(2年)が粘り強いピッチングをみせると6回まで2対2でゲームを進めた。7回表に1点

を奪われて2対3となったが選手たちは気落しなかった。

■チーム全員でつかんだ勝利

7回裏に一死1・2塁のチャンスを迎えると4番・中村翔(1年=一塁手)がライトへタイムリー二塁打。ふたりの走者がホームに還って逆転に成功した。当初のプランでは、エース福田からサウスポー永吉仁太(1年)への継投を考えていたが、エース続投を選択。福田は8回にスコアリングポジションにランナーを進められたが、粘りの投球で耐えた。9回には、須藤慶大(1年=捕手)が無死1塁から盗塁を刺して流れを断ち切り、4対3で守り抜いた。タジャンラゲット・カー主将(2年=内野手)は「チーム全員でつかんだ勝利です」と振り返った。

■1996年秋県大会優勝の伝統校

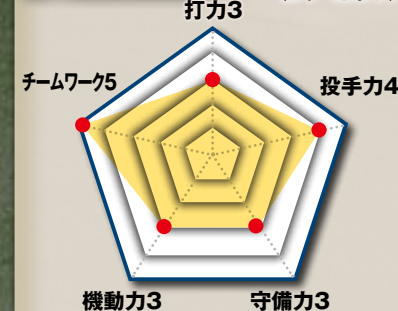
小山北桜は、1996年に秋季県大会で優勝し

関東大会へ出場した実績を持つ。野球部OBは高谷裕亮(元ソフトバンク=現コーチ)で、高谷在籍時は夏ベスト8まで進出した。当時は多くの部員がいたが、時代の流れとともに減り2021年秋の新チーム時には3人だけとなった。現在の選手は1年生7人、2年生7人。野球が好きな選手たちは力を合わせて練習からチームを盛り上げている。菅原監督は「野球初心者もいるチームですが、みんなが頑張ってくれている。高校野球を通じて一つでも多くの成功体験を得ることが、大学や社会など次のステージへつながっていくと思います。結果よりも大事なことを伝えていければと考えています」と話す。選手たちは、喜びを積み上げていくことで、たくましくなっていく。



主将の
チーム分析

タジャンラゲット・カー 主将
(2年=遊撃手)



チームワークを武器に戦う

「小山北桜は元気が良く、声で盛り上げてくれるチームです。1・2年生で15人(マネージャー1人)ですが、学年の枠がなく、みんなで努力しています。チームワークを武器に勝ち上がっていきたいと思います」



小山北桜・菅原祐貴監督(写真右) 努力することの大切さを学んでほしい

「まずは高校野球で毎日の生活を頑張ることで、努力することの大切さを学んでもらいたいと思います。練習の成果を試合で発揮し、それぞれが一つ一つ目標を達成してほしいと考えています。それが次のステージにつながっていくと信じています」

1989年岩手県生まれ。盛岡第四一白鷗大。那須清峰で顧問、矢板で部長を務めて足利南で監督となり2016年夏にベスト8進出。2021年に小山北桜に着任し2022年秋から監督。(写真左は橋本昌英部長)

小山北桜高校

【住所】栃木県小山市東山田448-29 【創立】1918年 【甲子園歴】なし
農業・工業・商業・家庭の4つの学科がある栃木県内唯一の総合産業高校。1996年度の学科再編で、「小山園芸高校」から「小山北桜高校」に校名変更。野球部は1996年秋の県優勝で関東大会出場の実績を持つ。野球部OBに高谷裕亮(元ソフトバンク=現コーチ)。